

令和2年度第1回富津市創生会議 会議録（要旨）

1 会議の名称	令和2年度第1回富津市創生会議
2 開催日時	令和2年10月26日（月） 午前9時30分～午前12時02分
3 開催場所	富津市役所5階 502・503 会議室
4 審議等事項	1 会長及び副会長の選出について 2 第1期総合戦略の実績及び評価について
5 出席者名	富津市創生会議委員（11名） 青木 和彦、青木 一美、岩沢 宏幸、小泉 晴信 島野 勝弘、鈴木 敏夫、鈴木 文江、広瀬 真之 丸 翔太、森田 泰彰、山口 拓也 事務局（10名） 市長 高橋 恭市、副市長 小泉 義行、 総務部長 白石 久雄、総務部参与 前田 雅章、 総務部次長 市原 岳人、企画課長 阿部 淳一郎、 企画課企画係長 田内 友臣、企画課主任主事 鶴岡 隆樹、 企画課主任主事 野尻 剛史、企画課主事 田澤 佳美 事業担当課（34名）
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当 (理由)
8 傍聴人数	0人（定員 5人）
9 所管課	総務部企画課企画係 電話 0439-80-1223
10 会議録（発言の内容）	別紙のとおり

上記会議の経過を記載し、事実と相違ないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

富津市創生会議 会議録署名人

会議録署名人

令和2年度第1回富津市創生会議 会議録（要旨）

発言者	発言内容
	<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 市長あいさつ</p> <p>4 委員及び市職員の紹介</p> <p>会議録の確定について 会長の指名した委員による承認を採用</p> <p>5 議題 (1) 会長及び副会長の選出について 下記のとおり委員の互選により選出 会長 岩沢 宏幸 副会長 鈴木 敏夫</p> <p>会長及び副会長あいさつ</p> <p>会議録署委員の指名 会議録署名人は、青木和彦委員及び青木一美委員</p> <p>(2) 第1期総合戦略の実績及び評価について</p>
岩沢会長	議題（2）について事務局から説明を求める。
事務局	第1期総合戦略の基本目標に係る実績値、施策に係る実績値及び目標達成率、総括的評価について、資料3を用いて説明。
岩沢会長	それでは、議題（2）第1期総合戦略の実績及び評価について質疑に入る。まず、基本目標1について質問、意見はあるか。
山口委員	<p>始めに、今回どのような形でコメントしていくか自分の中で定義したので説明する。評価報告書ということで、前回の会議の中で計画に対してコメントしていることがあったので、今回、計画をしっかりと実行できていたのかという執行面に関してのコメントが1つ、もう1つは結果的にこれが正しい計画だったのかという経営的な視点でのコメントを中心にしていけたらと思う。正しい計画だったのかということに関して、まず、28ページのふっつのいいこと発信事業について、5年前と今とで時代が変わっているので、設定時点では仕方がなかったと思うが、フェイスブックは世間的に少し落ち目で、今はインスタグラムやユーチューブなど他のSNSを見られる方がいるので、これで正しい成果が出たかど</p>

うか指標を図るのは正直正しい指標ではなかったと思う。ホームページのアクセス数についても、何ページ表示されたかというPV数を今回掲載していると思うが、今だとユニークユーザーという形で何人訪れたかというのを見ることの方が重要視されているため、今後、これらの指標に関しては改善していく必要があると思う。もう少し具体的に提案すると、フェイスブックの他にインスタグラムなどの指標も入れる、かつ、ホームページに関しても、アクセス数ではなくユニークユーザーにしておくと思う。このホームページのアクセス数というのは、場合によっては減っていく可能性があって、ツイッターとかフェイスブックなどの他のメディアから一次情報を得て、ホームページへアクセスする形になるので、今後、ホームページのアクセス数が下がる可能性は大いにあることから、そういったことも考慮して、指標に関しては、今後、最適な値にしていくと思う。

秘書広報課

ホームページのアクセス数については、5年前に比べてかなり増えているが、台風の関係もあり、増えている可能性があると考えている。インスタグラムなどのその他のメディアも、といった指摘については、11月1日からLINEの運用をスタートするが、そういう面でもホームページに紐づけられるような仕組みを考えているので、今後ホームページの来訪者数も指標に入れていきたいと思う。

青木（一）委員

29ページの市民活動支援事業の、市民が誇れる市の顔づくり関連事業で、令和元年度の数値が結構増えているのがすごく良いことだと思った。2団体が実施したとあるが、どういった団体が実施したか知りたい。2団体しかなかったのも、もっと内容が分かれば活発に増えていくのではないかと思うが、どんな団体があったのか知りたい。

市民課

昨年度の実績にある2団体については、富津市宇藤原にある里山体験塾で、やぎの放牧牧場をメインに運営していて、SNSなどで発信した情報で市外の人に富津市の田舎暮らしを体験してもらうことをコンセプトにした団体である。今年の台風の影響もあったが、延べ人数で40人くらいの方が来訪されたとのこと。もう1団体は、東大むら塾という団体で、富津市内に宿泊して、地域の方たちと富津市の課題を発見して、それについての改善策を発表し合うコンクール形式のものを行った。もっと増やすための方策は、現在検討しているところである。

岩沢会長

どういった団体に活用して欲しいと思うか。

市民課

今年申請が来る予定の方で、子ども食堂をやりたい方がいるが、その開業に向けた資金面的なもの、例えば道具の準備や食材にも当てられるので活用して欲しいと思う。あと、天羽地区でボランティア活動を中心にやりたいという方で、はまひるがおの生息地を広げたり、ホテルの生息地を広げたりするような活動をしたいという相談を受けている団体がある。

山口委員	<p>基本的な施策の方向③の歯科健診のところだが、正しい計画だったのか、歯科健診は項目に入れるべきであったのか質問する。理由としては、歯科健診をすることより、特定健診やスポーツをした方が地域で元気に暮らすということに大きく繋がるのではないかと思う。また、どのような取組を行っているのか、逆に歯科健診より他の方を頑張った方が良いのではないかと現場の声があれば、この指標をなくして別の指標に変えるなど、次の期から検討しても良いのではないか。意見を聞かせて欲しい。</p>
健康づくり課	<p>健康増進事業の一環として市で取り組んでいるものである。取組内容に関する周知を日々行っている。指標については、ご指摘のとおり、変更するかどうかも含めて検討していく。</p>
高橋市長	<p>歯科健診については、私の政策上の中で取組をさせていただいている項目の一つで、健康に対する影響が少ないのではとの意見をいただいたが、現在、専門的な見地からインフルエンザの予防や認知症に進む人の割合が少なくなるのではないかと様々な考えが発表されており、口腔内の問題は、それほどまで健康に直結していくという話もあるので、今すぐ結果は出ませんが、今しばらく市民の健康づくりの一つの柱として、今後も進めていきたいと考えている。まだスタートしたばかりで、指標として大きな数字が出てきていないが、ご理解いただきたいと思う。</p>
山口委員	<p>そのことが全体に伝われば良いと思ったのと、推奨のための通知を送付することしかしておらず、受診率はそんなに上がらないと思うので、今後の施策のところをもっと充実していけばと思う。</p>
森田委員	<p>質問ではないが、自分の暮らす地域を好きになるという基本目標にぴったりのテレビ番組がありまして、BS朝日5チャンネルの木曜夜9時から「昇太秘密基地」という番組がやっている。岩沢会長の郵便局からちょっと入ったところでやっている。なるべく、富津で撮影して富津の特産を紹介しつつ、春風亭昇太さんが面白く遊んでいくという番組なので、是非皆さんに番組を紹介してもらって数字を上げていきたいと思う。現在3月いっぱいまで決まっているが、数字が下がってしまうと番組が续かなくなるので、是非応援していただきたいと思う。</p>
岩沢会長	<p>是非、PRをしていただきたいと思う。</p>
島野委員	<p>個別の話というよりは、全体的な話をコメントさせていただければと思う。最初に総括的評価ということでコメントがあったが、僕が良いなと思ったのは、実際に人口減少の抑制が上手く進んでいないことを謙虚に認めていて、自治体は上手くいったと発表しがちだと思っているので、上手くいかなかったことを認めたという評価をよく書いたとされていて、真摯に市が取り組んでいると感じた。それについては非常に良かった。山口委員からもあったが、環境が変わるので指標も変わるというの</p>

を前提に、この2期総合戦略は運営していただければ良いと思っていて、特に今年はコロナでリモート勤務とかディーエックスといったところはかなり進んだので、去年の計画策定時からかなり環境が変わっているので、そこについては、計画を見直すというのは難しいが、施策や評価項目を工夫して柔軟に対応できればと思う。ただ、評価項目が頻繁に変わってしまうと何をやっているのかよく分からなくなってしまうので、今後も継続性の観点から残すものがあったとしても構わないので、この場で意見を述べさせてもらえればと思う。

事務局

第1期総合戦略の5年間で評価できるものもあるが、最終目標である人口については、掲げている人数に届いていない状況には変わらないので、今回の第2期総合戦略については、第1期総合戦略の目標を継続して掲げていき、どれだけ成果が出るかを見ながら新たな方策を練っていく必要があると考えている。また、コロナ禍の影響で事業に若干狂いが生じてくるところではあるが、第2期総合戦略の策定時はコロナ禍でない状況で策定している。今後、個別の計画等にコロナに対する対策というのも各担当課で盛り込んでいくと思うので、その時はご指導いただけたらと思う。

岩沢会長

次に、基本目標2について質問、意見はあるか。

丸委員

43ページの事業に該当するかどうか分からないが、この前テレビでやっていたが、コロナ禍で地方に家を買ったり借りたりして、そこから通勤するという内容で富津市が内房で1番になっているのを見た。私のお客さんにもいるが、近所の空き家をリフォームして暮らしている有名な芸能人やタレントさんが増えてきており、そういったお客さんは新しい家を建てるのではなくて、空き家をリフォームして暮らしていて、そういった方のお話を聞くと富津の自然豊かなところが良かったと皆さん言っていたので、富津市としても、こういう家が空いていますけどどうですかという発信が、案外私たちが思わなかったところも、都会の人たちから見れば素敵に感じる家、場所、立地があるのではないかなと思う。そうすれば新しい方がどんどん入ってきて富津市の人口が何人かでも増えてくれれば良いなと思ったので、今後もアピールしていけばもっと富津の良さが分かるのではないかなと思う。

企画課

先程、丸委員からもあったが、10月22日にテレビ朝日にて、スーモという不動産サイトで、首都圏において1月と8月を比較して関心が高くなっている場所の紹介があった。その中の中古建ての部門で富津市が1位に選ばれ、近隣では館山が2位、木更津が5位であり、2拠点生活の関心が高い場所ということで富津市が選ばれている。中古住宅については不動産屋にかなり問い合わせが来ているようで、市としては空家バンク制度があり、現在3件あったうち、1件は売れて2件目が交渉中である。やはり、県外に住んでいる人の方が富津市の空家バンクに登録されている物件に興味があり、現地に見に来る方が多くいる。金額的にも

1千万くらいであれば、東京の人たちに見れば全然安いとの意見もいただいております、市としても、これから空家バンクにもっと登録してもらい、また、登録物件をもっと増やしていこうということで、今年度の対策として、空き家の修理代、リフォーム代についての補助を始めている。これは、空き家の修理代、リフォーム代に掛かる費用の2分の1、最高50万円を補助する制度で、例えば、空き家を買われた方が塀や車庫がいなければ、その撤去費用として使用したり、台所の修理が必要であれば、そのリフォーム代に使えるという制度を今年度から始めている。また、今年度中に空家バンクの登録に関する業務委託の契約をしていく予定で、物件数をもっと増やして、関心のある方々に富津市の良さを見てもらい、どんどん移住・定住してもらいたいと考えている。

島野委員

今のご意見大変良いなと思います、その番組、私の家族も見ているのを聞きました。7月だったと思うが、市議会議員の皆さんに今後どうすべきかというところで、いくつかお話をしたのだが、やはり、コロナでリモート勤務が増え、週に何回か会社に行けば良いという会社が増えているので、都内の大企業の会社で出社化は2分の1くらいになっているところは結構ある。そういう意味では、2日に1回くらい会社に行くくらいなら、ちょっと遠くてもという人が増えるのは容易に予想できたので、その対策は厚めにしても良いのかと思う。例えば、他の自治体だと遠距離通勤用の費用を一部補助しているところもあるようで、極端な話、新幹線の定期代を出すとやっている自治体もあるので、そこまでとは言わないが、高速バス代の半分出しますとか、そういうことが出来れば良いなと思う。空き家の話についてだが、これから空き家の需要が増えていくと、良い空き家がどんどん無くなってしまい、そうすると、修理費が段々かさんでくるので、この制度は一過性のものになる可能性が高いことから、そこに甘えず、継続的に施策を出すよう考えた方が良い。結構、空き家はまだあるが、良い空き家じゃない気がする。そこが懸念点。そういう意味で言うと、家を買ってこちらに移住するのは結構ハードルが高いので、市が取り組むのか不動産屋が取り組むのか分からないところもあるが、貸家をどうするかなど、そういったところをケアすると人口を増やすといった目的に対しては同じ効果を持つので、買ってくればなお良いが、貸家でも良いから住んでくれば、それはそれで良いというやり方も良いのかなと思う。あと、遠距離通勤用に高速バスは非常に重要だが、グーグルなどで検索すると、残念ながら、高速バスは経路として出ない。横浜からここに来ようと思ってグーグルで調べると内房線と総武線が出るという状態で、バスで案内するということはグーグルではない。なぜかという、データが供給されていないから。世の中の的にグーグルに載っていないものは無いものと一緒ですから、7社あるバスの事業者さんが乗り入れているので、誰かが音頭を取っていかないとグーグルさんにデータを提供するのは難しいのかなと思うので、是非その辺は考えて欲しい。バスのダイヤもデジタル化されていて、グーグルで検索すると、地域によっては路線バスのダイヤも何時何分にここに行きたいとやると、ちゃんと出るようになっているが、そこも足

りない状況かと思う。その辺もデータの提供をするなど、事業所さんと共有すると良いと思うので検討して欲しい。

企画課

先程、島野委員が貸家でも良いのではないかと言われたが、市の制度は買っても、借りても良いとしている。今のところ、貸す条件でのお客さんは登録されていないが、貸す側も家を貸すに当たり、この家だと貸すには厳しい状態だという方は、補助金を使い、直して貸すといった方法も取れるというのをうたっているのので、今後、そちらの方も人数が増えていけば良いと思っている。公共交通の関係も含め、移住・定住策を打っていくのに、交通費の支給というのは非常に良いと感じた。バスのダイヤについては、コロナ禍の中でバスに乗る方が減少し、バス事業者から減便を強いられている状況であるので、今後、その辺のダイヤも含めて、都心までのアクセスについて便利になるよう事業者と協議を続けていきたいと思う。

鈴木（文）委員

38 ページに富津市タクシー運賃助成事業、浅間山バスストップ二次交通確保事業、竹岡地区公共交通空白地有償運送事業、公共交通マップとあるが、具体的にどのような事業なのか。

企画課

富津市では、平成 30 年 3 月に富津市公共交通網形成計画を定めて、公共交通を必要とする方々のための、持続可能な公共交通網を維持していく計画として定めたものである。その計画に基づき、現在事業を行っているところで、まず、富津市タクシー運賃助成事業については、今年の 7 月から、富津市内とその近隣のタクシーを利用される方に対して、1 乗車当たり 500 円の補助をするという事業で、主に運転免許証を持っていない高齢者の方が利用されており、現在 1500 人ほど登録者がおり、多くの方に利用されている状況である。次に、富津浅間山バスストップ二次交通確保事業については、今年の 10 月に富津浅間山バスストップが開設されたことに併せて、主に、富津市に訪れる外部の方向けに二次交通としてカーシェアリングサービスを提供しているものである。次に、竹岡地区公共交通空白地有償運送事業については、富津市には公共交通がなかなか利用いただけない、使いたくても近くにない、公共交通空白地という地域が存在する。その空白地を埋めるために計画しており、平成 30 年 4 月から竹岡地区において NPO 法人が「ぷちバスわだち」という形で、ハイエースを出していただき、公共交通空白地にお住いの高齢者の方を近くの湊地区、そこまでに至るスーパーや医療機関といったところを結ぶような事業を行っている。次に、公共交通マップについては、富津市にはバス、タクシー、JR などがあるが、どこに走っているか分からないという声もあったので、公共交通の利用を促進するためにどこに路線バスが走っているか一目で分かるような形でマップを作成し、配布をさせていただいているところで、毎年改定して発行しているところである。

鈴木（文）委員	タクシー運賃助成事業については、主に免許証を返納する方にされているのは大切だと思う。竹岡地区公共交通空白地については、ぷちバスが走っているのは、私も見たことがある。私は利用していないが、登録はさせていただいている。バスストップの方へ伸びるというような手紙が届いたが、それはどういう目的なのか。天羽地区に住む方で登録されている方が、バスストップを利用される方やその周辺に用があって利用できるという目的で伸ばすということか。
企画課	その通りです。富津浅間山バスストップは当初、路線バスのそこへの乗入れを検討していたが、なかなか採算性が厳しいだろうということで、バス事業者の方からも参入は厳しいという話があり、現在は、来訪者の方がそこからどこか行く手段としては、カーシェアリングサービスを提供させていただいているところではある。しかし、市民の方がバスストップまで行く手段が厳しいというところがあり、NPO法人さんの方からもバスストップを利用したい方が竹岡にもいるという話があったので、私たちの方で延伸をしようとお話を受けて、市としても賛同し、延伸に至ったという形である。
鈴木（文）委員	地区に住んでいる方でなければ、乗れないのか。観光を考えて、例えば、あそこに降り立った方がそのバスに乗って、利用するってことはできないのか。
企画課	現在の制度では、観光客の方であっても、登録さえしていただければ、ご利用いただける形ではある。
鈴木（文）委員	市民ではなくても、登録すれば乗れるということか。
企画課	はい。
鈴木（文）委員	今まで認識が違いました。ありがとうございます。それと、カーシェアリングの利用は結構あるのか。
企画課	カーシェアリングサービスについては、昨年度の台風の被害やコロナの影響もあるところだが、数字としてはなかなか伸びない状況である。ただし、昨年度の導入当初から比べると人数は毎月徐々に右肩上がりとなっている。
鈴木（文）委員	毎月どれぐらいか。
企画課	8月の利用で13名の方が利用されている。
鈴木（文）委員	8月が一番多いのか。
企画課	はい。



島野委員

浅間山のカーシェアリングだが、シンボリックな施策だと思っていて、公共交通をうまく整備しきれない中でどうやって課題を解決するか一つのトライアルだと理解している。先程のグーグルで検索できない話とリンクしているが、結局、高速バスがグーグルで検索できないので、あそこにカーシェアリングがあることが知られないということなのかと思いい、そこがリンクしていると良いと思うのが一つの仮説で、もう一つは先程テレビ番組の話があったが、例えばテレビ番組で使ってもらうとか、市として働きかけられれば良いなと思う。東京駅からバスで、浅間山で降りて、カーシェアリング使って昇太さんのところに行きました、みたいなのが入るとすごく良い宣伝になると思ったので、思い付きですけど、テレビ局に提案してみると良い宣伝になりませんか。あと、バスとかも市内で使う人は限られているが、バス旅って最近番組でやられるようになってるので、例えばバスで市内を回るコースを市で一つ考えて、青堀とか君津に来たら、そこからバスに乗って、富津岬と東京湾観音とマザー牧場みたいなところで3つ回って帰ります、みたいなものをつくるとか。検証してみる必要はあるが、ダイヤがそうなっているのかも含めて提案されるなど、もう一つ工夫があると、やった感があるかと思うので、是非お考えいただきたい。

企画課

先程、良いモデルプランがあればというような話だったと思うんですが、バスの件に限らず、公共交通を利用して、東京方面から富津市や富津市近郊に観光へ行くというところで、市も市民の方等から意見を募集して、そのモデルプランをホームページ上で公開しているところである。それについては、例えば半日コースがあったり、一日コースがあったりして、何時の電車で着て市内のバスに乗ってなど、こんなプランがありますよと、お知らせはしている。それから、先程の竹岡地区の空白地有償運送については、通常の公共交通のバスが通っておらず、大変不自由するエリアの人達に対して、上総湊駅であったり、原田内科であったり、吉田屋だったり、そういうところまで運びましょうということで、NP O法人が始めたところである。しかし、中には80歳を過ぎても、85歳を過ぎても、まだまだ運転すると言っている高齢者の方がいらっしゃるので、当初考えていた人数が乗っていないため、事業者さんの方で、コメリであったり、浅間山バスストップであったり、あちらの方まで延伸をしてもらえないかと言うお客さんもいたということで、今回、バス路線の変更が行われた。先程、島野委員から、東京の方から来て、浅間山バスストップに降りた人を運ぶというようなことはどうか、とあったが、確かに登録さえすれば、乗ることは可能であると思う。しかし、実際あそこに高速のバス停を作った時に路線バスのバス停を上総湊駅から繋ぐようなバス路線を市も計画していたが、バス事業者も採算性が合わないと、どうしても新しいバス停を作ることができないという話があり、それが実現できなかったため、カーシェアリングを二次交通とし、あそこに2台車を停めて降りた方が使えるようにしているという状況である。

鈴木（文）委員	<p>やっぱり、都会の方からいらっしゃったり、使う方はそこから降りてからが大変ですね。うちはお寺だから、いらっしゃった方がそこで降りた場合に、どうやって行ったら良いのかが大変困る。やっぱり、路線バスは利用が良くないと結局あそこのお寺のバス停も使えなくなってしまうので、もったいない。千葉からも行き来できるし、新宿からも停まりますよね。だから、とりあえずは、福祉のぷちバスが出ていますけど、コミュニティバスみたいなのが出てもらおうと、良いなと思う。</p>
企画課	<p>おっしゃる通りで、もう1点お伝えし忘れていたことで、タクシーがありまして、天羽合同タクシーさん、上総湊駅と佐貫町駅であります。朝8時から夕方6時までの間であればタクシーをご利用いただくことも可能である。コミュニティバスについても可能性の一つとしてはあると思うが、経費の問題もあるので、すぐに導入するかは検討が必要である。</p>
広瀬委員	<p>資料の方を拝見したときに、移住の相談の件数や観光客の実績とかの数字が評価として低い評価として出ているところですが、色々と委員の方からも出ていますが、例えば先程出たような話で、福祉とか子育てのゾーンとか、そういう内部向けもそうですが、移住とかのゾーンは外部向けで、それをPRしていくのは大事だと思うし、その中で色々メディアの話も出ていたが、やはり私はPR動画をうまく活用していくというのが汎用かと思う。他市についても、そういうのをうまく利用しているので、全般的な話になりますが、そちらをお力いただけると良いのかなと思う。予算の兼ね合いもあると思うが。あと、移住のところ、銀行にいとコロナの4月、5月の後、業者さんと話していると、かなり問合せが増えている。実際、千葉銀行については内部の数字はあまり言えないが、正直コロナの中だが、住宅ローンの前期の数字は良かった。ただ、そこからが大切で、テレワーク、リモートワークで都内にたまに行けばいいやという方もいると思うが、その時にアクアラインを渡ってこちらに着いて、じゃあどこに住もうかなと思ったときに、そこがポイントになると思う。やはり、富津市に住もうという方を多く作るということであれば、先程冒頭で申し上げたPR動画だとかで袖ヶ浦、木更津、君津ではなくて富津ですと、自然の海が自慢なのは富津ですと、先程からも出ている予算の兼ね合いもあるのですが、山があって、その自然のPRとともに交通網の整備というところも、洗礼された都会の人を呼び込むには自然の良さもあるが、どうしても生活利便性というところが最後には出てきてしまうので、他市よりも富津市を選んでもらうPRをしながら、公共交通網もそうだが、市を縦断するような道路の整備等も必要になってくると思う。</p>
企画課	<p>PR動画の活用というのは非常に有効な手段の一つとして認識している。移住・定住業務は企画課で担当しているが、ピンポイントで何かをPRするのではなく、庁内で横断的に関係部署と連携しながら、市の魅力を伝えていくことが非常に重要だということは認識している。その中で企画課で担当している、移住・定住については、まだまだ空家バンク</p>

を立ち上げたとはいえ、先程申し上げたとおり、登録件数も少ないという現実もあるので、より動画等を活用して、こういった空き家が登録されているというのをPRできれば、見る側にとって良い形になるのでは考えている。

高橋市長

委員の皆様から、このコロナ禍の中で移住への動きというのは、皆さん実感している、そして感じられているとお聞かせいただいた。それは、今日参加している私をはじめ、全ての職員も同じ意見である。

今、担当からも話したように、現在空家バンク、移住等を企画課の中で担当させておりますが、今後、来年度に向けて、専門的にその仕事に取り組めるような組織改編も現状では考えさせていただいている。限られた職員の中、限られた予算の中ではあるが、富津市にとって、千載一遇のチャンスになるのではないかと期待もしている。また、島野委員の発言にもあった、一過性ではなくて、長い時間をしっかりかけながらも人を増やすためには、移住という部分が富津市にとっては欠かせない要因だと思っているので、真剣にこの半年間のタイムラグが非常にもったいないなと感じられるかもしれないが、その点はこのような公共の組織がゆえのところとご理解いただければと思っている。しっかりと今のニーズに応えながら、一人でも多くの方に注目していただけるように頑張りたいと思う。

島野委員

今の議論の中で、例えば市のホームページに載せてますとか、動画を活用しますという話があったと思うが、結構載せても全然見られないということが非常によく見られるので、是非その辺は山口委員のお知恵をお借りするようなことを少し考えられると良いのかなと思う。

高橋市長

ありがとうございます。本日まで出席の委員の方はもちろんですが、市内にはそれぞれのお考えを持った素晴らしい方たちがいらっしゃる。市民の皆さんに現状をお伝えしながら、是非良い形の移住・定住策、そういうような形を整えていきたいと思っている。その中で、空家バンクについて、一つだけ委員の皆様にお願ひさせていただきたいのが、当たり前ですけど、担当も空家バンクについて一生懸命取り組まさせていただいている。しかしながら、現状は登録が伸びないというのがあり、やはり空き家というのは、その地域にお住まいでない方が持ち主であるケースが非常に多いというような現状がある。そうすると、ご近所の方がその持ち主と一番数多く接する機会をお持ちだというように私は思っている。そういう意味では、富津市にこういう制度が始まった、その理由はこうなんだ、こういうために始めているんだよ、というようなことをお伝えいただくことが、やはり登録者数を増やすという意味では非常に有効だと私自身は思っている。もちろん、今の時代の色々な形での情報発信はいたしますが、やはり、隣の方がお話しいただく、近所の方がお伝えいただくというようなことは、大変大きな力になっているので、今日、空家バンクに対しても様々なご意見をいただいた委員の皆様にも、そして皆様の周りの方々にも、もし、そのような空き家が目立ってきた

なという意見がありましたら、富津市がこういうことをやり始めているんだよということをお伝えいただけたら幸いです。よろしく願います。

岩沢会長

基本目標2まで終了したので、一旦休憩に入る。

(休憩)

岩沢会長

会議を再開する。  
基本目標3について質問、意見はあるか。

青木(和)委員

富津市では、近隣市と比べ、子育てに関して力を入れていると認識している。特に第三子以降の保育料無償化等は他の市にないものである。しかしながら、53ページの保育園の運営に関して、最近は早くからお子さんを預ける家庭が多くなっていて、定員になっていないのにもかかわらず、お子さんを受け入れられない状況にあるということを伺ったことがある。それは保育士が少ないという問題があり、私どもの幼稚園もそうだが、今人材不足に大変悩んでいる。保育をする側の人を育てることに関して、どのように考えているか。

子育て支援課

保育士数については、公立保育園についても不足している部分があり、定員に対して充足率がかなり少ない状況で、特に富津地区に集中している。市の計画としては、公立保育所を適正に配置していくことも検討している段階でもあり、その中で、保育士の集約も含め検討段階である。保育士の募集については1年中行っているが、申込みが来るのは短時間の先生が多いというのもあり、日中は充足しているが、朝晩は足りていない部分もあるので、補助等の職員も検討しながら考えていきたいと思う。

青木(和)委員

確かに短時間労働者については、都合の良い時間帯しかないのも、早い時間や遅い時間はなかなか来ないのが現状だと思う。また、新卒の方も、今は保育事業に色々な企業が参入して、高額な給料などでどんどん北の方へ移っていく現象がある。例えば、この地域では新しく先生になる人を育てるということが必要になってくると思う。じゃないと、いつまでたってもこの状況が変わらない。給料の競争をしたときに勝てるわけがないので、なかなか難しいと思う。そういった意味で先生を育てるということをしていった方が良いと思う。これは個人の幼稚園等ではなかなかできないことで、市の対策としてそういったことをやっていくのではないかと思うので、検討いただきたい。

子育て支援課

人を育てるというのは保育所も大事だと思うので、国の事業などを活用しながら、今後検討していきたい。

青木（一）委員	<p>子どもの笑顔があふれるまちについてだが、成果指標の達成状況はAが多く、目標より上回っているということが、富津市で暮らしている子供や保護者は良かったと思っている人が多いんだなとすごく感じた。実際、私が赤ちゃんを育てていた時と比べてもチャイルドシートの貸付であったり、不妊治療の助成であったり、ごみ袋の支給などはなかったので、すごく良いと思う。その中で一つ思ったのが、56ページの妊娠・出産包括支援事業は始まったばかりの制度だと思うが、30年度が2件で元年度が0件となっていて、評価に必要な真に必要な人がいなかったということだが、この事業はどういったものなのか知りたい。</p>
健康づくり課	<p>出産を終えられて、新生児を育てるに当たってお母さま方がしんどいと思った時に、宿泊であったりデイサービスであったりなど、医療機関の専門の方に新生児を預け、その間お母さんが休んでもらうというような内容になる。利用件数が2件、0件とあるが、母子手帳を交付する時にこのような制度があると周知をしており、相談件数はもっとあるが実施には至っていない状況である。</p>
青木（一）委員	<p>今、コロナ禍で自宅に引きこもることが多いと思うが、産んだ時はそういう制度を使わなくてもできるだろうと思っていても、その時になってみたら必要な状況になってしまうかもしれないことから、すごく良い制度だと思うので、もっと広めていければ良いと思う。</p>
山口委員	<p>先程言えなかった、基本目標2についても含めて質問させていただく。正しい計画だったかという経営点の方から先に述べさせてもらうが、1点目は、移住しやすい環境づくりについて全体的なところで、今の施策の方向で移住しやすい環境は分かるが、移住者を受け入れる、移住者を増やすという指標がないので、正直増えないと思う。今後の指標として、どこかで移住者を増やす指標を挙げてもらえばと思う。来年度に組織改編があると思うので、そういった指標をいれた方が良いと思う。その辺何かお聞かせいただきたい。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおり、目標数値の設定というのは総合戦略に施策として載せている以上、可能な限り明確な目標を公表するというスタンスは重要であると考えている。現状、移住者の定義というのは、例えば空家バンクの登録物件に係る購入、賃貸などの人数であれば具体的であり、間違いのない数字であるため公表できるが、漠然と移住者の数となると定義がなかなか難しく、今後、企画課の方でも移住施策を組織として方策を練って打っていく予定だが、その方策によって認識できる、確認できる指標等を設定して、市民の皆様に分かりやすい指標公表を検討していく必要があると考えている。</p>
山口委員	<p>指標として、認知度を上げるということがあまりできていないと思うが、そこがない。そこを今後新たに組織改編の中で移住フェアの参加者数を増やしますとか、移住希望登録者数を増やしますとか、そういうよ</p>

うな指標にすると良いと思う。

事務局

おっしゃるとおりで、まずは、何から始めるべきかという富津市というものを知ってもらうということ、その中で富津市に住むことでどういったサービスを受けられるのか、こういった暮らしができるというのをいかに知ってもらうというところが、今現在、取組が十分にできていないところであるという反省は担当の方でもしている。まずは、そこから、動画も含めた情報発信というところで、庁内協力も得ながら認知をしてもらうが大事だと考えているので、まずはその土台部分をしっかりと作っていくというところから着実に始めていきたいと考えている。

山口委員

2点目は、39ページの児童遊園地の成果で、元年度が入っていないというのがあるのですが、純粹にここの指標に関しては整備数で良いのではないかと思います。取組実績にも整備というのがあるので、利用したいと思う人という項目が正しい成果指標ではないのではないかと思います、整備数に指標を変える方が良いのではないかと思います。

3点目は、43ページの移住・定住促進事業の成果指標が転入者数だと移住・定住者を集めた数だけではないので、もう少し別の指標に変えていった方が良いと思うが、その辺はどう考えるか。

企画課

この転入者数を成果指標に設定させていただいている経緯を申し上げますと、事業内容のところで、観光・しごと・移住推進プロジェクトと記載しているが、これは平成27、28年度に国の交付金を活用してNPO法人富津情報交流センターさんと連携して取り組むプロジェクトであり、このプロジェクトの成果指標を交付金申請の際に転入者数として申請している状況であったことから、国への報告と合わせるような形で、指標も設定し、それを継続している状況である。ただ、おっしゃるとおり、転入者というのは、様々な要因で転入されており、転入者の増減が直接この事業のみによって左右されるものではないという認識は、担当の方でもしている。したがって、成果指標については、毎年度実行計画をローリングしていく中で、随時状況に応じて適切な成果指標を設定していくべきだと考えている。

山口委員

私からこんな指標は良いのではないかとというのがあり、一つは空家バンクの登録数や空家バンクの利用希望者登録者数などが良いのではと思う。他にも、移住者促進に協力してくれる地域のサポーターの人数などを指標にすれば、この事業の成果が出るのかと思う。企画課は色々やることが多く大変だと思うが、楽しみにしている。あと、もう一つ実行の部分で気になったところがあり、半農半Xだが、あまり良い結果ではなかったが、実際やってみてどうだったか、反省点などあれば教えていただきたい。

農林水産課

半農半Xについては、移住してもらい、農業をやってもらうことが目的になっており、空き家等を利用して、そこについている農地等を耕し

てもらい耕作放棄地を減らして欲しいということが農林水産課の目的であった。成果については相談件数があるが、これについては空家バンクが立ち上がったので、そちらで吸収できると考えている。

山口委員

その件数が0件であったので、なぜかと聞いたのだが、空家バンクの方で成果を出したということか。

農林水産課長

空家バンクの登録物件には大体農地が付いていて、そこで農業もやりたいと相談があるが、直接農林水産課の方へ相談が来るわけではないことから、空家バンクの登録物件に関する相談が、指標の成果に繋がっている。

山口委員

この部分は農政係ではなく企画課の数字が担っているということか。

農林水産課

成果としては、空家バンク制度ができた時点で、半農半Xの目的は達成していると農林水産課は考えている。空家バンクで農地付きの家を買ってもらい、耕してもらえば農作放棄地も減るということで、半農半Xが出ていたが、第2期目から半農半Xというのは空家バンクが立ち上がったので施策としては掲げていない。

岩沢会長

事業の方で色々意見をいただいた。計画性の話もあると思うが、市でも検討してもらえればと思う。

島野委員

質問というよりはコメントに近いが、子育て日本一は次期の総合戦略の一番上に書かれていると認識しているので、この項目が今回やりたい大事なことなのだと思うのだが、個別のことというよりは全体的なことを申し上げると、子育て日本一というが、市としてはどこまで面倒見ているのかと考えた時に、割と乳幼児から幼稚園くらいまで手厚いと今回の施策などを見て思った。高校生くらいまでは地元にいる人が多いので、そこくらいまで広げていただく方が良いと思う。もう一つは、学校の先生が非常にオーバーワークになっているというのが現状であり、市全体の問題であると思うが、もう少し一般の方がお手伝いできる施策を拡充してはいかかかなと思う。金曜日に佐貫小学校でプログラミングの授業をやらしてもらったが、やはり小学校の先生では英語やプログラミングの授業は難しいと思うので、多少はお役に立てたのかなと思っている。だから、部活動などそういうところは、一般の方ができるだけ入れるような仕組みがあると良いと思う。それに関連して、先日ある業種の交流会で会社を引退した後どうしようか議論したことがあって、ボランティアしたいよねという方が多くいて、学校関係のボランティアをしたいという方が結構いたので、そういった方を都会から移住するモチベーションとして、富津がボランティアに対して開かれた自治体であるイメージは非常に重要なのかと思う。例えば、授業のお手伝いをするとか、部活のお手伝いをするとか、学童保育の補助をするとか、そういうので良いと思う。そうやって、働き盛りの人が来るというのが重要なんですが、

	もう一つはお金を持っているリタイアした人に生きがいを与える移住対策と教育対策が両方できるのかなと思う。
岩沢会長	次に、基本目標4について質問、意見はあるか。
小泉委員	66ページの特産品開発調査、研究事業で、今、新富津はクロダイが問題になっているので、今年からクロダイを有効活用して何かを作ろうという流れになっていて、木更津の人と料理人が手を組んでやっているが、富津市としてではなく、もっと、富津、君津、木更津みたいな感じでやろうとしているが、そのようなやり方でも市から補助はしてもらえるのか。
農林水産課	本市において、生産される農林水産物で観光の発展に資するような特産品開発になると思うので、十分活用できると思う。
小泉委員	今、フィッシュバーガーなどを作っていたら、その名前には是非富津という名前を入れたいと言ってもらっているので、そのまま進めていきたいと思う。
岩沢会長	なるべく支援ができるよう協力をお願いします。
広瀬委員	2つあり、まず1つ目が17、18ページで、市内で働く人の数というのが目標値よりも100人以上実績が上がっているということと、認定新規就農者数も目標に掲げている数字を大きく上回る実績を上げられている。委員の方々もこれらの数字に貢献されているのかもしれないですが、こういった就労者数だとか新規就農者数の上手くいっている事例などがあれば、ご教示いただきたい。それと、69ページの有害鳥獣の捕獲については、市がALSOK千葉さんと一緒に取り組んで捕獲回収しているというのは、私どもも非常に注目しているので、今後の展開をご教示いただきたい。
商工観光課	17ページの市内で働く人の数についてですが、こちらは国の経済センサスを基にしており、24年度と28年度の比較となっている。64ページの企業誘致関係で富津地区工業用地雇用者数の指標を見ていただくと、企業の進出もあるが、市内の従業員の数が増えているといったところも結果に表れているのではないかと考えている。
岩沢会長	有害鳥獣の回答をお願いしたい。
鳥獣対策室	この事業については、生きたまま捕獲して相手に引き渡すというのが条件ではあるが、市としても良い事業だと認識している。また、ALSOKについても従業員がいない中で取り組んでいただいているため、協議をしながら進めているところである。
広瀬委員	新規就農者数については、森田委員が貢献していると思うが、その辺



はどうなのか。

農林水産課

68 ページに農業次世代人材投資事業というのがあり、農業を始めたい人に年間 150 万円を 4 年間給付するという事業がある。この事業を活用する人が増えており、県や J A そして農業委員会等で新規就農者の方を支援していただいております、特に森田さんのところの百姓王の方で農業を始めた方が、これを利用して独り立ちして増えている状況である。

森田委員

69 ページの地域の実情に応じた規制緩和について、農業委員の方で農振農用地域以外の農地を取得する下限面積を 1 反に下げたが、周りの市は未だに下限面積が 5 反以上取得しないと就農できないこともあり、富津市は農振農用地域以外だけ 1 反に下げたということが、農業をやりたい人がそこに目を付けて、富津に相談してみるとということがあったのだと思う。それを踏まえて西川地区で現在 2 件、今年も 1 件新規就農者がいて、並んだ土地が出てきたので、3 人並んで新規就農者がというのがあった。そこに見学に来る人も結構いて、富津でやりたいという人が意外というが、まだまだハードルが高いのかなと思うところがあり、優良農地だと 5 反集めないと農業が始められないというところがあるので、もう少し話を進めていき、認定新規就農者であれば農振地域でも 1 反なり 3 反なりと、もう少しハードルを下げればもっと新規就農者が増えていくのではないかなと思う。もう少し踏み込んで、認定新規就農者になれば富津では 1 反から農業ができるといったことをもう少し話していけたらと思うが、どのようにお考えか。

農業委員会

先程のご質問については、お話のあったとおり、農地の下限面積は、通常、農地法では 5 反、50 アールを超える耕作面積を持っていない方は農地の所有権の移転等はできないということが法令上定まっております、それを平成 30 年 9 月に富津市内の農業振興地域、農用地域以外の農地であれば 10 アールを超える方に許可ができるというふうな下限面積を引き下げたところである。農業振興地域の農用地については市の運用政策上、農地として活用することが望ましい農地として定められているが、農地を活用するに当たって、面積があまりにも狭いと生産性がとても低くなってしまいますので、いたずらに引き下げるのは難しいと思うが、委員がおっしゃられたような、新規就農者に限るといような条件付きであれば、影響が小さくすることができると思うので、農業委員会も総会において、今後、議論を進めていければと考えている。

岩沢会長

色々と頑張っていると思うが、これからもお願いしたい。

山口委員

72 ページの商工観光課の部分で質問する。成果指標が観光客入込数となっているが、この事業でこの成果指標は違うと思う。この指標だとこの事業の善し悪しが判断できない。このため、今後、別の指標に変えていくことを検討した方が良いと思うが商工観光課としてはいかがか。

商工観光課	おっしゃるとおりで、現在の指標だと入込数全体として成果を見ているので、個別の事業に対する指標を検討していきたいと思う。
岩沢会長	具体的にいい指標があれば、ご意見いただけると市も助かると思うが。
山口委員	シンプルに整備事業だと整備数、看板設置数で良いと思う。PR事業に関しては、観光大使の認定数や観光大使によってどれだけの人を呼ぶことができたのか、認知度を上げることができたのかというような形で、イベントを行うようであれば、来場者数などを成果指標に置くと良いと思った。宿泊滞在型に関しては、実際、取組実績はツアーキャンペーンが主だと思うので、成果指標はツアーの企画数、実施数、ツアーでの来場者数などを今後の指標にしていくと良いと思った。
岩沢会長	継続性等もあると思うので、検討の方をお願いします。
島野委員	市として産業をどうやって振興するかという問題は非常に重要な問題だと思うが、ちょうど今、世の中の流れが大きく変わっていて、特にデジタル化という意味でハンコをやめるとか行政手続きの簡素化、デジタル化などが進んでいる。市役所はある意味一つの会社だと私は思っているので、どうやって市役所自体の仕事をデジタル化するかということを含めて考えると良いと思う。特に先進的な取組をして企業を呼び込むというと市役所の予算もそれなりにあるので、そういうところで企業を呼ぶというのを考えられると良いと思う。工業団地もとても良いと思うが、IT系の会社を呼ばないとこれからやっていくというのは難しいと思うので、そのあたりを考えてください。それで富津にショーケースができれば、森田さんが先ほど言ったように農業で見学者が来るのであれば、ディーエックスでも見学者が来るので、そうやって市役所が人を集める、みたいなことを施策に入れられると良いと思う。
岩沢会長	意見としてで、よろしいか。
島野委員	はい。
鈴木副会長	前回、事業を評価していく中でどのようにPDCAサイクルを回しているのか確認させていただいたが、今年度、一つの事業に対してPDCAサイクルはどのくらいのスパンで回しているのか。年間1回なのか、四半期なのか、半期なのかその辺のサイクルを教えて欲しい。なぜかという、評価後は事業内容の見直しを行い、それに合う指標に変えていくべきであるため、その辺を確認したい。
事務局	PDCAはどのくらいのタイミングでという話は、事業評価シートについては、年に1回担当の方で目標に対して成果の確認をしている。

鈴木副会長	<p>今、年に1回が良いのか、四半期が良いのか、半期が良いのか微妙ですが、今、一つの取組を各課ごとに実施しているのであれば、サイクルを回すのは単純に2回の方が良いのかと思う。われわれ企業も四半期ごとに回すようにしている。その都度上司から助言等をいただいているので、この会議の中で年2回報告はあると思うが、課の中ではもう少し短いサイクルでやられた方が良いと思う。これは、意見ではなくて要望的なことです。</p>
岩沢会長	<p>鈴木副会長から色々な参考意見があったので、市としても取り入れられるところは是非取り入れていただきたい。</p>
岩沢会長	<p>これで議題（2）第1期総合戦略の実績及評価についてはこれで終了する。続いて、議題（3）その他について委員の皆さんから何かあるか。</p>
委員	<p>特になし。</p>
岩沢会長	<p>事務局からは何かあるか。</p>
事務局	<p>特にありません。</p>
岩沢会長	<p>それでは、議題（3）その他については終了する。 本日の内容については、会議録の作成をもって取りまとめさせていただき、本日の内容については、会議録の作成をもって取りまとめさせていただきます。それでは、以上をもって全ての議題が終了したので、進行を事務局に返す。</p>
事務局	<p>6 閉会 小泉副市長あいさつ  (終了時刻 午前12時02分)</p>

以上